III　共同利用研究

1. 概　　要

昭和54年度共同利用研究の公募は「Ⅰ．研究課題」と「Ⅱ．研究会課題」とに大別し，前者については昭和52年度より開始された下記4設定課題とそれらに該当しない研究のため自由課題について行なわれた。

Ⅰ　設定課題「群れの統合機構に関する研究」

ニホンザルの群れは，どのような社会機構によって統合されているのかという問題を，広範な視点より研究し，従来の社会構造論を再検討し，新たな社会構造論の構築をめざす。

スペーシング，グルーピング，リーダー・フォロワー関係，血縁関係，順位の成立と構造，性・年令による社会的役割，オスとメスの生活史，コミュニケーション，カルチュア等，さらにオスとメスの群れからの移出入，コミュニティーに関する問題等が研究対象となる。

Ⅱ　設定課題「各環境構造における霊長類の適応機序の解明」

霊長類には多様な適応・放散がみられるが，各環境構造との対比において，霊長類の適応の機序を解明しようとするものである。

本課題においては，環境利用と生活様式，群れの遊動の様式，個体群動態，ロコモーション様式，地域個体群の諸特性，温度適応等に関する生理学的研究等のテーマが考えられ，これらのテーマを霊長類の生態学・形態学・生理学的手法を用いて，野外及び実験室において広く追究する。

Ⅲ　設定課題「霊長類の生殖と成長・発達」

個体が成熟する過程でみられる諸変化を，成長・発達の観点から総合的に追究する。例えば，身体の成長・発育，行動の発達，神経系の発達，性周期，生殖および周産期等の問題をとりあげる。

Ⅳ　設定課題「霊長類の系統・種分化・種の特性に関する研究」

霊長類の系統や種の諸特性を明らかにし，さらに種分化の諸機構を分析する。系統や種の同定と分化機構の形態学的分析，種内の集団構造や地域集団間，あるいは種間の系統的相互関係を解明する社会学的および遺伝学的研究，生体成分の構造・機能・代謝系を解明する生化学的研究などを行なう。

Ⅴ　自由課題（設定課題に含まれない研究課題）

これらの研究課題について46件（95名）の応募があり，運営委員会共同利用研究専門部会（伊澤紘生，糸魚川直祐，岩本光雄，久保田競，水原洋城）および共同利用研究実行委員会（竹中　修，室伏靖子，野上裕生，杉山幸丸，小山直樹）の合同会議による原案を協議員会（昭昭54年2月8日）の審議によって決定され，運営委員会（昭和54年2月28日）に報告し了承された。

その結果38件（75名）が採択され，各課題についての応募採択状況は次のとおりである。

課　題	応　募	採　択
Ⅰ	4件（ 8名）	4件（ 8名）
Ⅱ	6件（ 9名）	4件（ 6名）
Ⅲ	6件（ 8名）	6件（ 8名）
Ⅳ	11件（21名）	11件（21名）
Ⅴ	19件（49名）	13件（82名）

研究会課題に関しては，公募に際して従来からの研究会をも含めて設定課題ごとに対応する研究会に整理統合する方針で公募が行なわれ，以下の6件が採択された。

1. 課題Ⅰ「群れの総合機構に関する研究」
   ー群れの社会生態学ー
2. 課題Ⅱ「各環境構造における霊長類の適応機序の解明」
   ー霊長類の比較生態学の方法ー
3. 課題Ⅲ「霊長類の生殖と成長・発達」
   ーReproductive Biologyに関する研究会ー
4. 「第7回行動研究会」
   ーコミュニケーションとその伝達内容ー
5. 「第9回ホミニゼーション研究会」
   ー食性をめぐる諸問題ー
6. 「第6回脳と行動研究会」
   ー第2回行動と脳の階層性ー

（竹　中）